

平成 18 年第 4 回 札幌市環境プラザの運営に関する懇談会  
平成 18 年 11 月 9 日 (木) 19:00~21:00

参加者 19 名 ((財)札幌市青少年女性活動協会より 6 名、札幌市より 2 名出席)

受付 懇談会幹事 松岡 池田

進行 懇談会幹事 岡崎

記録 懇談会幹事 中西

開会 19:00

1 プラザ懇談会 (P コン) の説明

岡崎: 4 月までと指定管理に入った 4 月以降の違い等について説明

2 自己紹介

3 今日の流れについて

「環境口コミニティー市」イベント参加について

札幌市環境活動推進会議報告

指定管理者に移行してからの全体報告

相談員からの業務報告

次年度の見通しについて

懇談会に期待する事はなんですか? 全体的に意見をいただく。

懇談会予算に関して 全体的に意見をいただく

4 意見交換に入る

「環境口コミニティー市」イベント参加について

・環境のイベントとしてはいつもとはちがっていた 環境に興味を持っていない人や親子の参加が多かった。(ポスターの表彰があったせいかな)

・準備に時間と広報が足りなかった。皆で考えて工夫したらよかったのではないかな。

イベントで実施した、環境プラザに関するアンケートから

・楽しめるところがよかった。

・受付の笑顔がいい

・生の展示物 (例:水槽にさかな)があるといい

・環境活動をしている人の情報があるといい。

札幌市環境活動推進会議について

新保: 5 月に開催された会議では、CO<sub>2</sub>削減アクションプログラムにそって事業がおこなわれたり、10 万人宣言の進捗状況や市民環境提案の進捗状況についての説明があった。この「環境プラザの運営に関する懇談会」からも 岡崎・新保の 2 名の幹事が出席している。近々、次の 3 年に向かっての会議が開かれる予定であると思う。

宮田課長: 今月 (11 月) 末に会議が開かれる予定

5 月以降、本会議は開かれていないが、分科会で、議論が進められており、11 月の会議では、来年以降の事業の提案がなされる予定で、次の 3 年のアクションプログラムが練られることになる。

指定管理者に移行してからの全体報告

1 事業について（指定管理者：岡本さん）

主催事業・イベントについて

12 の主催講座終了

変わったところは4施設合同が可能になった2つの事業

1 キャンドルナイト（ロビートーク・パネル展）

・「環境口コミュニティ - 市」

子供たちから環境に関する絵・ポスターの募集し優れた作品を表彰し

2階ロビーに展示後 市内で移動展を現在おこなっている。

広報期間が短かったので人の集まりがわるかった。

・環境教育リーダーの派遣 15回

（リーダーの方達の、精力的な打合せに感心している。）

・環境アドバイザーの派遣 25回

・子供エコクラブ登録 21団体（343名） 昨年より、6団体増えた

共催事業について

・環境研究会とおもちゃのばくりっこ

・札幌市教職員セミナー（札幌市教育センターと共催）

・3R推進北海道大会 11月11・12日（環境省北海道地方環境事務所と）

・北海道ウオーム Biz プロジェクト（北海道と共催）

・札幌市児童生徒社会科研究作品展（地図教育研究会との共催）

2 利用状況について（指定管理者：志賀さん）

団体登録について

登録団体 1730 件の内、環境関連団体登録は 23。ただし、230 団体は環境関連の活動を行っている。

環境プラザ（展示コーナー）の来館者数

9300 名（夜の来館者もわずかではあるが増えている）

環境プラザ見学者 560 名

総合学習の中での小中学生の利用が 20 校（470 名）

知内・留萌・南幌からの総合学習での利用もあった。

3 管理について（指定管理者：山田さん）

4 施設が一括管理になったので相互利用が可能になった。

開館時間が延長された。

ミーティングルームの利用状況

237こま使われている。（1日/午前、午後、夜間で3コマ）

このうち登録団体の利用は120こま

環境研修室（有料）の利用状況

451件（利用率 36% 1日/午前、午後、夜間3件利用可能）

451件の内 28件が環境目的以外の利用

以上3部門から報告があった。報告についての質疑応答は、下記の通り。

Q 来館者は以前と比べて増えたのか減ったのか？どのように評価しているのか？

A 比較の数字は現在用意できていない。来館者を増やしたいと思っており、リピーターも含めてアプローチの仕方をさらに考えていきたい。 再度の利用をこえがけしている。

魅力あるものを加えていけば もっと人に来てもらえるのではないか。

Q 環境報告書をおいてもらえなかった。ある会社のは置いてあるのに公平性に欠けるのではないか。展示の基準はあるのか。

A 展示の基準はないが 考えなければならぬとおもう。展示してある環境報告書は 指定管理を受けたときに既にあったものと思う。現在企業のものはおいていない。

市：民間の力も必要であり もっと環境報告書を取り入れていく方向ではある。

A 今後は置く方向で考える。市と方向性を相談しながら基準を作っていきたい。

相談員からの業務報告（NPO 法人環境活動コンソーシアムえこらぼ 新保）

環境相談は 毎週月・水・金・土に行われ、環境活動コンソーシアムえこらぼが担当している。

・4月からの相談件数は153件

・相談者は一般の方が多く 環境に関する知識・情報提供に関する相談が多く 中でも ごみ・リサイクルに関する問い合わせが多いが 問い合わせの内容は多岐にわたっている

・廊下に面した小さな展示コーナーもえこらぼが担当している。

・相談からのフィードバックを三角柱のコーナーにて行っている。

○参加者の中から 展示や相談・HP はえこらぼの名前を出して主張すべきという意見があり そうすることが指定管理者にも指定管理に出した札幌市にとってもいい事ではないのかという意見があった。

指定管理者からは 展示コーナーに企画・作成としてえこらぼの名前を掲示する旨の発言があった。

次年度の見通しについて

指定管理者からは、次年度の計画については、これまでの状況を踏まえて市とも協議の上これから作成に入るので具体的な、はっきりとしたものはないが現段階では提示できるものがない。

・環境のことに気づいてもらう

・協力者・ボランティア等かわりを広げていきたい 等の発言があった。

市：環境教育の基本方針の改訂を進めている。環境教育と関わるきっかけを作る場の1つが環境プラザである。

いろいろな環境施設と連携していきたい。学校の環境教育に於いて体験学習をするためにプラザにきてもらうような環境教育の場としてのプラザの利用を考えている。

参加者：専門的にやっている方々のノウハウを上手く活用できないか

部分的に共催できないか。テーマを決めて展示をするようなことが出来るのか

参加者：学校にカリキュラムがあって、それに合えば見学や学習の対象になるがなかなか難しい。カリキュラムにあった展示はむずかしい であれば総合的な展示にる。

参加者：間違いのない展示物を充実してほしい その分野の専門家の意見を取り入れてほしい。休みの自由研究の支援などの PR する必要がある。

展示物の間違いについては 専門家のチェックを受ける事はたくさんの専門家の団体があるのだから利用・相談すればいいのではないかと意見があり、市としても気づいたところは直していききたいとの発言があった。

参加者：環境プラザから、地域に出向いて、講座等を行ってはどうか？

制度として、環境アドバイザー・環境教育リーダーが地域や学校に出向いている。また、札幌市出前講座の市の職員の派遣などもある。力強いパートナーとして協力してやっていきたい。

参加者：環境プラザについて PR をしていく必要がある。そのためには環境プラザの情報誌を発行するといいとおもいますが... 指定管理者はどう考えているのか

指定管理者：計画にあるが、なかなかそこまで手が回っていないのが現状である。

懇談会に期待する事はなんですか？ 全体から意見をいただく

- ・いろいろな団体・個人を把握したいので環境研修室等を利用する人と顔の見える状況を作ることが必要ではないか どんな団体のどんな人がいて団体同士の交流や紹介がいまの状況では出来ない。懇談会の PR などをしたくても顔をあわせる機会がない。以前は、窓口で行われていた申込・カギの受け渡しが、1階で一括して行われるようになったため、2階の窓口に立ち寄ることがなくなった。窓口の人に人が立ち寄り、情報が集まる仕組みが必要ではないか？
- ・展示の目的の方向性・枠組みを作っておかなければならないのでは？
- ・浅く広くプラザの機能を PR する必要がある。
- ・4施設に事業の中に環境を持ち込むことが事業の展開につながる。
- ・情報センターの充実
- ・HPを見やすくしてほしい 目的の物が探しづらい
- ・プラザの活用促進を学校に対してやっているのか
- ・道のサポートセンターは勉強する施設で小中学生にはどうかなと思うが環境プラザは小中学生も楽しめる場所
- ・2階のエレベーターホールにチラシをおいたらいいのでは。取り易い場所に見やすくおいたらいいと思う。

最後に個々の今日の感想を述べて頂いた

- ・気づいた点は言ってほしい（環境プラザ職員）
- ・次につながる意見が出てよかった
- ・環境プラザを良くしていく場が 「環境プラザに関する懇談会」である

などの意見が出た。